

I 環境科学研究科の活動の概要

環境科学研究科の昭和62年度の活動

岩城英夫*

1. 研究科の運営

(1) 教員会議および構成員

研究科の運営は、筑波大学大学院研究科教員会議規則に定められているとおり、研究科の教員会議により行われる。すなわち、研究科長を議長として、環境科学研究科の授業を担当する講師以上の教員で教員会議構成員として認められた教員により組織されている。本年度の教員会議構成員は表1に示す50名である。

表-1 研究科教員会議構成員

	氏名	所属学系		氏名	所属学系
教授	石塚皓造	応用生物化学系	助教授	小泉允圀	社会工学系
教授	岩城英夫	生物科学系	助教授	国府田悦男	応用生物化学系
教授	大羽裕	応用生物化学系	助教授	佐藤俊	歴史・人類学系
教授	梶秀樹	社会工学系	助教授	佐藤洋平	社会工学系
教授	川手昭二	社会工学系	助教授	下條信弘	社会医学系
教授	河村武	地球科学系	助教授	田島學	社会工学系
教授	黒川洸	社会工学系	助教授	田付貞洋	農林学系
教授	河野博忠	社会工学系	助教授	手塚敬裕	化学系
教授	古藤一雄	地球科学系	助教授	日端康雄	社会工学系
教授	高野健三	生物科学系	助教授	藤井宏一	生物科学系
教授	高原栄重	農林工学系	助教授	前田修	生物科学系
教授	多田敦	農林工学系	助教授	松本栄次	地球科学系
教授	谷村秀彦	社会工学系	助教授	安田八十五	社会工学系
教授	中村以正	応用生物化学系	助教授	森下豊昭	応用生物化学系
教授	藤伊正哉	生物科学系	講師	阿部治	心身障害学系
教授	山口誠	社会医学系	講師	石田東生	社会工学系
教授	山中啓	応用生物化学系	講師	大橋力	応用生物化学系
教授	吉田富男	応用生物化学系	講師	小林守	地球科学系
助教授	安仁屋政武	地球科学系	講師	小斉藤隆史	生物科学系
助教授	天田高白	農林工学系	講師	佐久間泰一	農林工学系
助教授	糸賀黎	農林学系	講師	関李紀	化学系
助教授	岩崎駿介	社会工学系	講師	田瀬則雄	地球科学系
助教授	鷗野公郎	社会工学系	講師	久島繁	応用生物化学系
助教授	及川武久	生物科学系	講師	吉川博也	社会工学系
助教授	北畠能房	社会工学系			
助教授	熊谷良雄	社会工学系			

(議長 岩城英夫)

* 昭和62年度研究科長

本研究科はコース制を採用せず、1研究科1専攻制を堅持しているため、研究科の運営は全構成員の参加による研究科教員会議ですべて決する従来の基本方針を本年度も踏襲した。従って、定例の教員会議は毎月第3水曜日に開催した。8月は休会にしたため、計11回開催した。そのほか、10月に入学試験を行い、その合否判定のための教員会議を臨時に1回開催した。

教員会議とはべつに、研究科長を議長とする教授間協議会を開催し、人事その他研究科の運営に関する重要事項について意見交換を行った。定例の協議会は、原則として、毎月第2火曜日の正午から開催した。

(2) 各種委員会

研究科の運営に関し、その業務を分担するため、教員会議の下にカリキュラム委員会、入試委員会、編集委員会、就職委員会、就職委員会および運営委員会を設置した。各委員会の委員長および委員を表-2～表-6に示す。

表-2 カリキュラム委員会

委員長	梶	秀	樹
委員	黒	川	洸
〃	鶴	野	公
〃	国府田	悦	男
〃	藤	井	宏
〃	森	下	豊
〃	田	瀬	則
事務	腰	塚	昭

表-3 入試委員会

委員長	河	村	武
委員	糸	賀	黎
〃	及	川	武
〃	鶴	野	公
〃	国府田	悦	男
〃	森	下	豊
〃	安仁屋	政	武
事務	松	村	有

表-4 編集委員会

委員長	高	野	健
委員	北	畠	能
〃	小	泉	允
〃	森	下	豊
〃	小	林	守
〃	下	條	信
事務	鎌	田	元

表-5 就職委員会

委員長	山	中	啓
委員	藤	伊	正
〃	糸	賀	黎
〃	田	島	學
〃	森	下	豊
〃	天	田	高
〃	大	橋	力
〃	吉	川	博
事務	朴		恵

表-6 運営委員会

委員長	岩	城	英
委員	及	川	武
〃	国府田	悦	男
〃	田	島	學
〃	前	田	修
〃	森	下	豊
〃	安	田	八
〃	安仁屋	政	武
〃	下	條	信
〃	田	瀬	則
事務	田	村	憲

本年度研究科より選出された学内の委員は次のようであった。

修士課程委員会委員	石塚教授
菅平高原実験センター運営委員(修士課程選出)	岩城教授
下田臨海実験センター運営委員(修士課程選出)	山中教授
実験廃棄物処理委員会委員(修士課程選出)	森下助教授

2. 研究科教職員の異動

本年度より新たに大羽裕教授、久島繁講師(以上、応用生物化学系)、藤伊正教授、斎藤隆史講師(以上、生物科学系)、多田敦教授、佐久間泰一講師(以上、農林工学系)、田付貞洋助教授(農林学系)、阿部治講師(心身障害学系)、関李紀講師(化学系)が教員会議構成員になった。

掛谷誠助教授(歴史・人類学系)の後任として佐藤俊助教授(歴史・人類学系)が62年10月1日に着任した。また新藤静夫教授(地球科学系)の後任として古藤田一雄教授(地球化学系)が教員会議構成員になった。さらに62年10月1日付で吉田富男教授(応用生物科学系)が千葉大学へ転出し、62年10月1日より63年3月31日まで本研究科併任になった。また高原栄重教授(農林工学系)は昭和63年3月末日をもって定年退官された。

研究科技官の野中昌法氏は7月1日付で新潟大学へ転出した。また鎌田元弘(5月1日付)、田村憲司(7月16日付)、渡辺一成(9月1日付)、島田秋彦(9月16日付)の各氏が新たに技官(準研究員)として任用された。

3. 学年行事

昭和62年

4月8日午前	大学院入学式(講堂)
8日~10日	研究科ガイダンス
8日午後	新入生に対する全体ガイダンス(C103)
9日午前	1年生ガイダンス(実習、共通科目等)(C103)
	2年生に対するガイダンス(A306)
9日午後	2年生修論テーマ発表会(C103)
10日	分野別ガイダンス(C103)
10月8日	修論中間発表会(C103)
20日~21日	10月期入学試験実施
11月25日	合格者発表

昭和63年

2月9日~10日	修士論文発表会(B107, C103)
3月25日	大学院修了式(講堂)

4. 入学試験

10月期入学試験を10月20日、21日の両日実施した。前年度と同様に、第1日目は学科試験、第2日目は面接を行った。21日に臨時教員会議において合格候補者を選定した。本年度は出願者が177名、受験者169名より103名(内、有職者5名、国費外国人留学生2名、私費外国人留学生3名)を合

格候補者とした。

5. 教育活動

(1) カリキュラムの改訂

本年度より必修科目を再編・整理し、3科目・5単位とした。すなわち、1年次の1学期に、環境問題に関する学際的な基礎知識と環境科学的思考の育成を目的とする総合的な科目(環境科学Ⅰ,Ⅱ,各2単位)、及び環境科学の各分野に関する方法論と技法の習得を狙いとす実習科目(環境科学実習,1単位)を必修共通科目として課することにした。一方、専門科目については履修単位数を増やし、科目の新設などにより専門性の強化を図った。これに伴い、研究科の担当教官数は前年度よりもかなり増加した。

(2) 修士論文指導

修士論文については、2年生の場合、4月に修論テーマ発表会、10月に中間発表会を全員参加の形式で行った。また、より詳細な中間発表会を各分野別に行い、分野内の複数の教員による指導の実を掲げるよう努力した。2月には最終の修士論文発表会を公開で2日間にわたり行い、また講演要旨集を発行した。

1年生に対しては、入学直後より専攻の指導を全体ガイダンス、分野別ガイダンスを通じて行い、9月に修士論文課題を提出させるとともに、指導教員を定め論文指導を行った。

なお、学生の修士論文のデータベース化作業を、昨年引続き、教育方法等改善経費(「環境科学修士論文のデータベース化とその教育への継続的活用法の確立」代表者、山中教授)により進め、学生の修論研究に活用した。

(3) 論文審査

本年度は第1学期末課程修了者はなかった。3月修了予定学生については、昭和63年1月12日に論文概要と目次を事務区に提出させ、これをうけて1月19日に第1回論文審査委員会を開催し、全員について主査・副査を決定した。2月12日、89名の学生が論文審査願とともに論文を提出した。2月16日、第2回論文審査委員会を開催し、89編の論文すべてを合格とした。2月17日の教員会議において上記委員会の結果が報告され、単位の取得その他を併せて審議した結果、88名の修了が承認された。

(4) 環境科学実習

本年度より環境科学実習1単位を必修共通科目として課し、1学期の毎週土曜日に実施した。この科目は1年生全員を対象に、環境科学に関する基礎的手法の習得、自然・生物環境の巡検、都市・集落の視察、関連施設の見学等を通じて、環境科学の諸側面を体験的に学習させることを目指した。本年度は、筑波山の巡検、東京湾、霞ヶ浦、学園都市の視察、試験研究機関の諸施設の見学、簡単な実習・演習、映像教材を用いた学習会などを行った。

6. 入学及び修了の状況

62年度入学者は89名であり、外国人留学生は3名、有職者は6名である。2年生は95名で、1名の学生が退学し、94名中89名が修士論文を提出し、88名が3月に修了した。第1学期末修了者はなかった。

なお、本年度の修了者のうち、筑波大学博士課程への進学者6名、他大学博士課程への進学者1名、筑波大学研究生2名、公務員6名、教員5名、民間企業への就職39名(63年3月末報告分)、そして有識者2名が原職に復帰した。

7. 研究科予算

研究科運営に必要な経費の配分額は、ほぼ前年度と同様である。本年度の配分・支出額を表-7に示した。本年度は特に視聴覚教育設備の充実を重点とし、C103講義室に大型ビデオ・プロジェクターを設置した。

表-7 昭和62年度環境科学研究科会計

配分額	(円)	支出額	(円)
学生当たり積算校費	15,642,647	事務運営費	3,636,003
教育関係経費	2,266,000	修士論文指導費	9,844,484
大学院経費	6,254,000	実習費	1,952,334
厚生補導重点配分	126,000	教育運営費	2,127,347
留学生当たり積算校費	1,778,000	研究科プロジェクト費	3,333,090
教育方法等改善経費	770,000	厚生補導費	126,000
		備品・修理費	4,982,500
		教育方法等改善経費	808,889
		節約	296,000
合計	27,106,647	合計	27,106,647

8. 研究科プロジェクト

前年度に引き続き、本年度も研究科プロジェクトを推進した。研究科教官よりプロジェクト研究課題を募集し、運営委員会で検討した結果、本年度は下記の班の研究科プロジェクトを実施することとした。

(研究課題)	(代表者)
「霞ヶ浦と人間」	前田 修
「白神山地ブナ原生林での林道建設計画をめぐる環境科学的基礎研究」	安仁屋政武
「県南地域における都市的災害の発生過程に関する研究」	高原栄重
「霞ヶ浦の環境浄化総合研究」	河野博忠
「環境情報ディスプレイ装置を利用した教育システム」	鶴野公郎

9. 研究科の対外的活動

(1) 第10回国立大学大学院環境科学研究科長会議

7月16日、17日の両日、北海道大学が当番校になり、札幌で開催された。本研究科より岩城研究科長、石塚教授が、事務関係から大学院課の上野課長補佐が出席した。討議された議題は、

1. 環境科学会(仮称)への対応について(北海道大学提出)
2. 研究科長会議のあり方について(北海道大学提出)
3. 地域研究のモニタリングについて(北海道大学提出)

なお来年度以降の環境科学合同研究発表会については、環境科学会の活動と推移を見ながら、今後も存続させるか或いは発展的に解消させるかについて、さらに検討することになった。

(2) 第6回環境科学合同研究発表会

10月1日、2日の両日、東京工業大学を当番校として開催された。第1日目は一般講演13題が発表され、第2日目は一般講演7題とシンポジウム「都市環境の開発と保全」のテーマで11題の発表があった。本研究科から一般講演に河村・朴が、シンポジウムに梶・平松が発表した。

(3) 第2回環境科学シンポジウム

11月25日-27日の3日間、「環境科学」特別研究総合班及び「環境科学シンポジウム」実行委員会(委員長、山中啓教授)の主催による第2回「環境科学シンポジウム」が東京で開催された。本研究科から河村・朴、山口・下条、石塚・松本、国府田・中村、石田・黒川、大橋、中村(徹)・岩城、山中、北畠が発表を行い、また多くの技官がシンポジウムの運営に協力した。なお、この期間中に、環境科学会の設立総会が開催され、正式に学会として発足した。

(4) 研究科教員の海外出張

本年度の研究科教員の海外出張および研修旅行を表-8にまとめた。

表-8 教官の海外出張・研修旅行

氏名	学系	出張期間	渡航目的	出張先
日端 康雄	社会工学系	62.4.3～62.4.9	国際シンポジウム出席及び視察	大韓民国
大橋 力	応用生物化学系	62.4.14～62.5.10	西アフリカにおける情報環境に関する実地調査	コートジボアール共和国他
岩崎 駿介	社会工学系	62.5.18～62.5.30	アジアにおける居住状況の調査	タイ王国
鶴野 公郎	社会工学系	62.5.24～62.6.7	米国及びカナダの経済事情調査	カナダ・アメリカ合衆国
大橋 力	応用生物化学系	62.6.10～62.7.5	東南アジア・オセアニアの現地調査	インドネシア共和国、バプアニューギニア
石塚 皓造	応用生物化学系	62.6.30～62.7.5	韓国雑草学会出席及び研究打合せ	大韓民国
岩崎 駿介	社会工学系	62.7.4～62.7.19	第三世界諸国の居住問題調査のため	タイ王国、民主カンボジア
河野 博忠	社会工学系	62.7.5～62.7.12	第10回国際地域学会太平洋大会出席のため	大韓民国
中村 徹	農林学系	62.7.14～62.8.27	内蒙古草原地域の総合的調査	中華人民共和国
安仁屋政武	地球科学系	62.7.21～62.8.12	シンポジウム出席及び野外巡検のため	アメリカ合衆国
梶 秀樹	社会工学系	62.7.28～62.8.10	アジア災害防備センター視察のため	タイ王国
大橋 力	応用生物化学系	62.8.3～62.8.28	遷都記念祭等への参加及び視察	コートジボアール共和国他
石塚 皓造	応用生物化学系	62.8.15～62.8.24	タイ国農耕地における基礎研究指導	タイ王国
小泉 允園	社会工学系	62.8.17～62.8.26	都市開発プロセスに関する調査	大韓民国
鶴野 公郎	社会工学系	62.8.22～62.8.31	国民所得国富学会出席	イタリア共和国
及川 武久	生物科学系	62.9.12～62.9.20	国際生気象学会出席	アメリカ合衆国
岩崎 駿介	社会工学系	62.9.13～62.9.17	タイ王国スラムの現状調査・研究	タイ王国
梶 秀樹	社会工学系	62.9.17～62.9.27	都市における緊急時管理の市民組織の調査研究のため	大韓民国
熊谷 良雄	社会工学系	62.9.17～62.9.27	〃	〃
黒川 洸	社会工学系	62.10.4～62.10.8	都市交通に関するセミナー参加及び調査	マレーシア
鶴野 公郎	社会工学系	62.11.1～62.11.8	日米及びアジア新興工業国の間の経済構造調整問題に関する論文発表並びに日本の産業調整、貿易摩擦に関する調査のため	アメリカ合衆国
河野 博忠	社会工学系	62.11.5～62.11.11	国際地域科学学会第34回北米大会及び交通投資の社会的便益に関する特別シンポジウム出席のため	アメリカ合衆国
山中 啓	応用生物化学系	62.11.9～62.11.16	第一回日中光合成細菌国際討論会参加及び研究発表	中華人民共和国
安仁屋政武	地球科学系	62.11.14～63.3.27	南極観測のため	南極地域

氏名	学系	出張期間	渡航目的	出張先
久島 繁	応用生物化学系	62.11.14~62.12.7	SABRAO シンポジウム出席, 植物種子収集及び共同研究のため	マレーシア, タイ
日端 康雄	社会工学系	62.11.19~62.11.28	都心地における人口回復を目的とした都市再開発政策のあり方に関するアメリカの経験の分析調査のため	アメリカ合衆国
田付 貞洋	農林工学系	62.11.27~62.12.9	アメリカ昆虫学会主催シンポジウム出席及び応用昆虫学に関する調査研究	アメリカ合衆国
山口 誠哉	社会工学系	62.12.13~62.12.17	WHO 西太平洋地区事務所会議	マニラ
黒川 洗	社会工学系	63.1.10~63.1.17	バクダット都市交通改善計画調査及び研究	イラク共和国
岩崎 駿介	社会工学系	63.1.11~63.1.18	開発途上国の居住問題研究のため	タイ王国
大橋 力	応用生物化学系	63.1.17~63.2.7	音環境の収集および現地調査	インド, インドネシア共和国
山口 誠哉	社会医学系	63.2.13~63.2.21	海外研修旅行	スイス連邦
下條 信弘	社会医学系	63.3.1~63.3.15	大気汚染の生体影響に関する調査のため	中華人民共和国
古藤田一雄	地球科学系	63.3.2~63.3.12	調査研究のため	中華人民共和国
岩崎 駿介	社会工学系	63.3.5~63.4.5	第三世界の居住問題調査のため	ケニア共和国, エチオピア他
高野 健三	生物科学系	63.3.12~63.3.20	海洋のシミュレーションモデルに関する研究	中華人民共和国
鵜野 公郎	社会工学系	63.3.12~63.3.27	国際会議出席のため	オーストリア共和国, イタリア共和国
河野 博忠	社会工学系	63.3.13~63.3.17	シンガポール都市計画と社会的便益研究	シンガポール共和国
谷村 秀彦	社会工学系	63.3.22~63.4.4	地域医療施設の利用分布調査等の調査	大韓民国